

# 福祉用具共通試験方法－受尿機能

## Common testing methods for assistive products – Urinal Function

### 序文

この規格は、福祉用具に付随する“機能”に着目した福祉用具の品目にとらわれない共通試験方法である。これらの機能別の試験方法の組合せによって、様々な福祉用具について最低限のリスクを評価することが可能となる。

### 1 適用範囲

この試験方法は、尿瓶の受け部や、集尿器の受尿部など、尿を受けるための機能(受尿機能)を持ったものに適用する。

### 2 引用規格

次に掲げる規格は、この規格に引用されることによって、この規格の規定の一部を構成する。これらの引用規格のうちで、西暦年を付記してあるものは、記載の年の版を適用し、その後の改正版(追補を含む。)は適用しない。西暦年の付記がない引用規格は、その最新版(追補を含む。)を適用する。

- JIS T 9231 集尿器
- JIS T 9233 ストーマ袋
- JIS Z 1706 ポリエチレンかん
- JIS Z 1655 プラスチック製通い容器
- JIS Z 8703 試験場所の標準状態

### 3 試験環境及び試験装置

#### 3.1 試験環境

試験は、JIS Z 8703 に規定する温度  $23\pm 5^{\circ}\text{C}$ 、相対湿度  $(65\pm 20)\%$ で行う。

#### 3.2 試験装置

a) 受尿部分がゴム製のもの

1) 漏れ試験装置

図 1 参照。

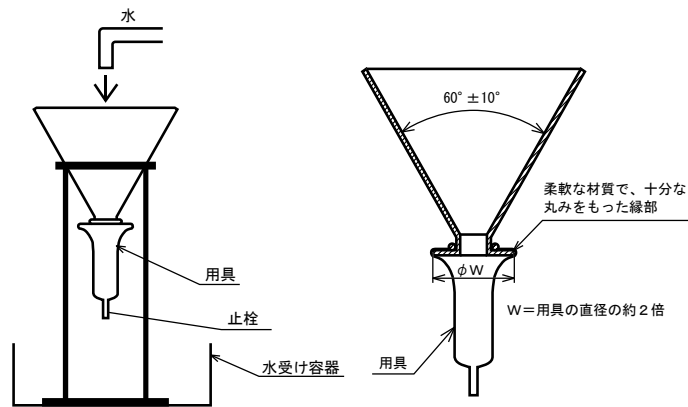


図 1 漏れ試験装置

- 2) 試験水
    - 0.1g/L のメチレンブルー水溶液
  - 3) 布又は画用紙
    - 用具より大きい面積の白く吸湿性のある布や画用紙など
  - 4) 恒温器又は空気加熱装置
    - オープンなど
- b) 受尿部分が硬いもの
- 1) 漏れ試験装置
    - 図 2 参照

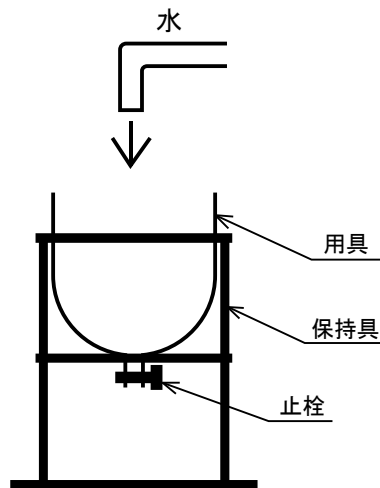


図 2 漏れ試験装置

- 2) 試験水
  - 0.1g/L のメチレンブルー水溶液
- 3) 布又は画用紙
  - 用具より大きい面積の白く吸湿性のある布や画用紙など

- 4) 剛性のある基礎  
コンクリートブロックなど
- 5) 木版  
厚さ 50mm の剛性のあるもの

## 4 試験方法（受尿部分がゴム製のもの）

### 4.1 熱衝撃強さ試験

熱衝撃強さの試験は、次のとおり行う。

- a) 水槽に水を入れ、温度を測定する。
- b) 恒温器を、水槽中の水の温度より 85°C 高く設定する。
- c) 恒温器が設定温度となった後、恒温器に用具を入れ、30 分間以上保つ。
- d) 用具を、5±1 秒で恒温器から水槽に移し、完全に浸し、8 秒から 2 分間保つ。
- e) 用具を、水槽から取り出し、直ちに割れの有無を調べる。

注記 1 水槽は、水道水を流し続けるなどによって、水温を±1°C に保つ。

2 恒温器は、温度を±1°C に保つ。

### 4.2 耐老化性試験

用具を沸騰水中に 20 分間、氷水中に 20 分間交互に浸せき、これを 10 回繰り返す。

### 4.3 無負荷漏れ試験

試験は、次の手順によって行う。

- a) 用具のチューブ接続部を止栓する。
- b) 試験水の色を判別するために、白く吸湿性のある布を、用具の周りに巻く。
- c) 用具に試験水を注入し、17±1 時間放置する。
- d) 目視によって、漏れから生じるしみや汚れがないことを確認する。

## 5 試験方法（受尿部分が硬いもの）

### 5.1 無負荷漏れ試験

試験は、次の手順によって行う。

- a) 用具のチューブ接続部を止栓する。
- b) 試験水の色を判別するために、白く吸湿性のある布を、用具の周りに巻く。
- c) 用具に試験水を注入し、12±1 時間放置する。
- d) 目視によって、漏れから生じるしみや汚れがないことを確認する。

### 5.2 落下衝撃試験

試験は、次の手順によって行う。

- a) 用具を、80±10cm の高さまでもち上げ、3 回ずつ、剛性のある基礎(コンクリートブロック)床面に置いた厚さ 50mm の堅い木板の上に落とす。(図 3 参照)
- b) 目視によって、使用に耐えられない破損やき裂、変形が用具にあるかどうかを確認する。  
注記 使用上支障となる底面や、かど部の割れの有無を調べるのが目的であるから、”破損がないこと”には、かどのリブの曲がり、白化現象は含まれないものとする。
- c) その後、試験水の色を判別するために、白く吸湿性のある布及び画用紙の上で、容器に試験水を入れる。

4

X XXXX : 0000

- d) 目視によって、漏れ、及び本体の破損にから生じるしみや汚れがないことが用具にあるかどうかを確認する。

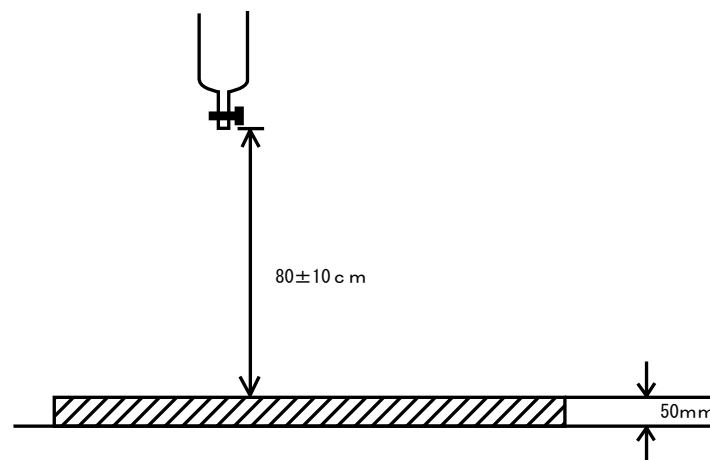


図3 落下衝撃試験